

7月号

こ が ね い

1次試験まで
あと16日
ですよ。

法政大学教職課程センター小金井相談室発行 kkck@ml.hosei.ac.jp

2021年6月25日発行



★ 今年度の受験生諸君へ！

(1) 教育実習、お疲れさまでした。

今年は、6月までに教育実習を終えた4年生が多かったのではないのでしょうか。去年はコロナの関係で全員が秋に変更されたので、今年はラッキーです。教採で教育実習の体験が話せるからです。実習校への礼状は、早めに出してください。書き方は「こがねい」6月号を参照してください。また、1次試験が終わったら、試験の様子を報告がてら実習校に挨拶とお礼に行くといいでしょう。

(2) ついに1次試験まであと2週間ほどになりました！

次の点に気を付けて本番に向けた最終調整をしましょう。

(1) 一人で家にこもらないで！

よく「大学受験は、団体戦！」と言われます。教員採用試験も全く同じです。4年生は授業がほとんどないので、この時期に大学に来ないで一人で家にこもって受験勉強する人がいますが、それは間違いです。私が今までに指導した学生で家にこもって勉強して合格した例は、極めて少ないです。むしろ、教員志望の仲間と直前まで大学に来て、一緒に筆記試験などの受験勉強や面接練習を行った学生の方が多く合格しています。それは、何故でしょう？一人で家にこもっていると、どんどん不安や心配が高まってくるからです。それよりも仲間と一緒に勉強している方が安心していられるし、新しいことや覚えるべきことがしっかり身に付くことが多いです。教職教養や専門教養の問題を出し合って確認するのもいいでしょう。勉強する場所に困ったら教職課程センター相談室を使ってください。教職関連の書籍や過去問もあります。ただ、今年はコロナが心配で大学に来られない場合も多いでしょう。その場合は、受験生仲間でzoomによる勉強会を企画したら如何でしょうか。いずれにしてもお互いの顔を見て話すことが重要です。グチでも何でも構いません。会話することで平常心を保ってください。この時期の引きこもりは禁物です。

(2) 論文練習の仕上げ方

これから試験日まで、800字や1050字の論文全部を書くのではなく、今までに書いた問題について「論文構造整理票」にまとめてください。「論文構造整理票」は配布済ですが、改めて欲しい人はメールください。君たちはこれまでに論文練習を重ねて来て、自分なりの論文の型ができています。あとは、どんな問題が来ても自分の型で対応できるようにするだけです。そのためには、新しい問題で800字や1050字を書くよりも、整理票で論文の構造を再確認の方が効果あります。また、夢中で書いていると、型にとられ過ぎて問題のキーワードから外れていることに気が付かない場合もあります。前文はもちろんですが、例や策も「問題のキーワードに寄せて書く」という冷静さが大切です。添削回数が多くても、本番でしっかりと正対した論文が書けなければ合格できません。逆に、添削回数が少なくても整理の仕方によっては試験当日に実力を発揮できます。直前の整理を十分に行ってください。

(3) 集団討論・個人面接練習・模擬面接について

集団討論練習には卒業生を含め、延19名(実9名)が、個人面接練習には延57名(実17名)が、模擬面接には延20名(実16名)が参加を希望しています。今年は日程を増やしましたが、それでも充足率はこの5年間で最高です。受験生の意欲の高さが表れています。本当に素晴らしいです。3・2・1年生でも見学可能です。

(4) 復元答案(論文と面接)を忘れずに提出してください。

1次試験も2次試験も、終わったら必ず「論文の復元答案」と「面接の復元答案」をメールで相談室に提出してください。復元答案というのは、自分が書いた論文や面接のやり取りを思い出して、MS-Wordなどで記述したものです。特に書式はありません。面接の復元答案には質問だけでなく、自分の答えも思い出して書いてください。さらに、面接官等の配置図や当日の様子、受験した感想や手応えなどを付けてくれると後輩が助かります。合格者の復元答案を後輩が参考にするをお認めください。試験当日は疲れているので無理かもしれませんが、できる限り早く作成してください。なぜなら、すぐに忘れてしまうからです。今までの指導経験から言えば、合格した人には試験後3日以内に復元率が85%以上の復元答案を送ってくれた人が多いようです。自分の可否予想のためにも、後輩の参考のためにも復元答案の提出をお願いします。

★ 来年度以降の受験生諸君へ！

11月27日(土)3・4限 於:W304 「教採合格体験談発表会」を行います。学年不問なので、是非参加してください。

《公立学校教員と私立学校教員の違い》

★ 公立学校と私立学校の教員は、どう違うのでしょうか。比較してみましょう。国立学校はほとんど新採教員を募集せず、経験者を採用することが多いので省きます。早慶の附属校も国立学校に近いです。内容は、あくまで私の経験や伝聞によるものです。

〔 比較項目 〕	〔 公立学校 〕	〔 私立学校 〕
設置者	地方自治体（教育委員会）	理事長（学校法人）
主たる根拠法令	地方公務員法、教育公務員特例法	私立学校法
採用方式（試験内容）	教員採用選考で候補者を決定 （筆記試験、論文試験、面接試験 等）	求人票や私学適性検査名簿から募集 （筆記試験、模擬授業、面接試験 等）
初任給	（東京都の例）2021年4月1日現在 ○小中高とも 約248,700円 ○特別支援学校 約261,700円	○学校の経営状況によって異なる。 ○一般的に、大学附属校は他の私立学校と比べて高給と聞く。
勤務時間	1日当たり 7時間45分 1週間当たり 38時間45分	学校によって異なる。公立学校教員より長い学校もある。受験する前に調べること。
超過勤務手当	給特法と歯止め4項目のため、残業手当は全く出ない。	残業手当は出る（はず?）。「公立並」と称して残業手当を出さない学校もあると聞く。
年次有給休暇（年休）	4月1日採用の場合は年間20日 1時間単位で取得可。次年度に繰り越せるので、採用2年目から年間40日の可能性大	学校によって異なる。 ○年間10日が多いと聞く。 ○時間単位の取得ができない場合がある。
昇給	定期昇給：1年で約5,000円（ほぼ確定） 賞与（ボーナス）があり（6月、12月、3月） 毎年、業績評価の結果で成績昇給に若干増減がある。	学校によって異なる。 ○勤務状態や成果に基づいて理事長（会）が決めることが多いと聞く。 ○経営状態によっては、賞与に影響がある。
昇進	（東京都の例）昇任選考あり（論文・面接） ○主任教諭（30歳以上）○4級職：主幹教諭・指導教諭（34歳以上）○指導主事（主任教諭経験2年以上）○副校長（主幹教諭経験、39歳以上）○校長（59歳未満） 近年、再任用フルタイム勤務が増えている	学校によって異なる。一定年数経験した後、校長や理事長から命じられることが多い。 ○学年主任、分掌主任、生徒募集担当 ○副校長・教頭（ごく一握りの教員） ○校長は、公立学校の退職校長もいる。
教員研修	○初任者研修（1年目義務） ○中堅教諭等資質向上研修（10年目義務） ○教育委員会主催の研修（昇任時義務） ○教科等の研修・研究会（任意） など	○新規採用教員研修（1年目義務） ○私立学校協会等が主催する研修（任意） ○教科等の研究会（任意） など 義務研修は少ない。
異動	（東京都の例）公募による異動制度もあり。 ○新採1校目は4年～5年で必異動 ○2校目以降は6年で必異動	学校によって異なる。 異動せず定年まで勤務することが多い。 大学附属校は附属校間での異動あり。
教員間の様子	毎年異動があるので派閥は少ない。	異動が少ないので派閥ができやすいと聞く。
中学校・高校間の連携	中高一貫教育校以外は、比較的薄い。	中高一貫教育校が多いので一体化している。
進学指導・進学講習	学校によるが、増加傾向にある。	学校によるが、都内は概ね進学校化傾向。
その他	非違行為（服務違反）等がなければ、定年まで教員として勤務できる。	経済状態や学校の事情によって雇止め（雇用停止）されることがある。

★ このように、公立・私立それぞれによさや特徴があります。要は、自分との相性です。生徒として入学するのではなく教員として働くわけですから、「生徒の様子」「教員の様子」「管理職の様子」（私立の場合は更に「経営状態」）をしっかりとチェックすることが重要です。具体的には、生徒がヤンチャなのかまじめなのか、教員は仲がよく互いに高め合おうとしているのか、校長や副校長の学校経営は生徒や教職員を大切にしているか、（私立学校では）不況の時にリストラされる恐れはないかなどです。授業公開や文化祭などを活用して学校を見学し、よく見てきましょう。



★でも、受けるチャンスがあるので、併願でもいいので、公立学校教員にチャレンジしてみませんか！全力で支援します。また、選択肢が増えるので、私学教員適性検査を受けておくことをお勧めします。3年生から受験できます。試験日は8月最終日曜日で、試験は筆記試験（専門科目と教職教養）だけ。願書×切は7/1（木）です。

★教職課程センターは、全力で皆さんの合格を応援＆支援しています。